

第18回日中冬期道路交通ワークショップに参加して

柴田 哲史 大浦 正樹 植野 英睦

1. はじめに

令和元年9月27日から30日にかけて、第18回日中冬期道路交通ワークショップ（以下、ワークショップと記す）が中華人民共和国遼寧省瀋陽市で開催されました（表-1）。

このワークショップに寒地土木研究所から筆者らが参加しましたので、報告します。

表-1 第18回ワークショップ日程

日付	日程
9月27日	・開会式 ・交流論文発表
9月28～29日	・エクスカージョン

2. ワークショップの経緯

日中冬期道路交通ワークショップは、中国及び日本北部地域の冬期道路交通関連技術に関して、議論や交流を通じ技術者間の相互理解と情報共有の促進を行うことを目的に、2002年から日本と中国北部5省（遼寧省、黒竜江省、吉林省、内モンゴル自治区、新疆ウイグル自治区）で毎年交互に開催されています。

寒地土木研究所では第1回から参加し、中国各地の積雪寒冷地にある道路交通系研究所との交流を進めています。今回の第18回は、中華人民共和国遼寧省瀋陽で遼寧省交通企画設計院有限公司などの主催で開催されました。瀋陽での開催は2011年（第10回）以来8年ぶり2回目の開催です。

3. 交流論文発表

中国日本双方より全16編の論文について発表が行われました。当研究所からは2編発表しました。

寒地道路保全チーム大浦が「大型車両の燃費に路面雪氷が及ぼす影響に関する研究」、寒地機械技術チーム植野が「路肩堆雪の成長傾向分析に関する基礎的研究」について発表し、それぞれ発表内容からさらに踏



写真-1 発表する寒地道路保全チーム大浦研究員

み込んだ質疑もあり活発な議論がなされました（写真-1）。

4. エクスカージョン

エクスカージョンは9月28日から瀋陽から大連まで、2日間で約750kmを移動し、瀋吉・撫通・鶴大・丹阜の4高速道路と、道路橋梁診断交通運輸研究開発センター（瀋陽市）、永陵SA（撫通高速）、港溝展望台（鶴大高速道路）、五龍背IC管理事務所（丹阜高速道路）の4施設を見学しました（図-1、写真-2）。



図-1 エクスカージョン行程（瀋陽～桓仁～大連）



写真-2 見学施設

5. おわりに

本ワークショップは、2002年に第1回が開催され今回で18回目を数えています。その間、中国の成長はめざましく、中国のGDPは2002年から2017年までの15年間に4倍以上に増大したのに対して、我が国のGDPは1割程度増えただけです。結果、中国の国内総生産額は2017年現在で12.24兆米ドル、我が国は4.87兆米ドルと、我が国の経済力は中国のその半分以下となっています。

実際、今回のワークショップで訪れた遼寧省の瀋陽や大連は、東京と同じかそれ以上の大都市と感じました。中国全体としてはどちらの都市も上位グループに入らない規模の都市ですが、それでも全面ガラス張りの摩天楼が林立する超近代都市です。もちろん、一步裏に回ると、昔ながらの市場や住宅もありましたが、表は近代都市そのものです。

ワークショップでの議論も、勢い、どうやって効率よく高速道路等の主要インフラを整備するか、維持管

理していくか、が主要課題で、我が国の高度経済成長時代のようにインフラ整備自体が社会的「善」と言えそうな状態だと感じました。また発表された論文もその主旨のものが多数を占めていました。

さらに、視察した高速道路の維持管理センターで使用している機材は、我が国ではまだ普及していない世界的に最新鋭のものも多い一方、自国で開発した旧式で大きな機材も並行して使用しており、一足飛びに発達している様子が見て取れました。あまりに一気に整備してしまった結果、劣化や老朽化も将来一斉に全中国的に発生する危険性も感じました。

街歩きや視察では、経済力にものを言わせた整備と発展に圧倒される一方で、今後表面化するであろう老朽化等に対応する補修ノウハウや維持管理の考え方等々、まだまだ技術的にも交流すべきことはある、と感じたワークショップとなりました。

また、今回の事務局会合では、中国側提案により隔年開催と日中交互開催の継続、が合意され、当初のスピード感のある時代よりトーンダウンしてきているのも感じられました。

それでも中国は大きな国です。これから更に大きくなっていくでしょう。それでも我が国は維持管理の面では一歩も二歩も先を歩いていると実感できました。もちろん効率的な整備方法として見習うべきところもありますし、胡座をかいていればすぐに追い越されてしまいます。今後も弛まずに研究開発を続け、世界のトップランナーであり続けることが我々の使命、と思いを新たにすることができた中国訪問となりました。

最後に今回のワークショップに参加・ご協力をいただいた皆様に感謝の意を表し、報告といたします。

*日本語と中国語で漢字表記が異なる部分がありますが、可能な範囲で日本語表記に合わせています。



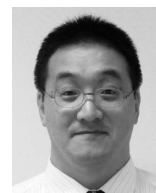
柴田 哲史
SHIBATA Tetsushi

寒地土木研究所
総括研究監



大浦 正樹
OOURA Masaki

寒地土木研究所
寒地保全技術研究グループ
寒地道路保全チーム
研究員



植野 英睦
UENO Hidechika

寒地土木研究所
技術開発調整監付
寒地機械技術チーム
主任研究員